

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-10-5/5)

目 的

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、アジア地域を中心とした諸外国の関係機関との具体的交流を推進するための協議を行う。

成 果

5年間のプロジェクトの総括として『無形文化財の伝承に関する資料集』を発行した。そのなかでは、5年間にわたって調査した文化財保護委員会作成の音声資料の一部（2世鶴沢清八による義太夫節の曲節に関する音声資料）を報告し、このプロジェクトで取り上げた能管の製作技法に関わる技法書の翻刻、文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録のうちの江戸小紋について紹介している。無形文化遺産部所蔵音声資料の整理、伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成するほか、無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室との合意書に基づき、研究員の相互派遣を実施した。

1 無形文化財、文化財保存技術の伝承研究

プロジェクトの報告書にあげなかった個々の調査研究は以下の通りである。

昨年度から開始した狂言小歌の伝承調査では、現在伝承されている狂言小歌のうち、初期歌舞伎と交流のあった歌謡について調査を行い、現在でも江戸初期の音楽構造をそのまま伝えていることを検証した。成果は楽劇学会大会で口頭発表し、『楽劇学』18号に掲載した。

また金沢と名古屋で別個に伝承されている和泉流狂言の技法について調査を行い、伝承の違いを明らかにした。成果は12月12日、石川県立能楽堂で開催した第5回無形文化遺産部公開学術講座で発表した。

戦前に開発・実用化された国産の音声記録媒体で、未だその全容が明らかとなっていないフィルム音帯について、早稲田大学演劇博物館と共同で調査を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』に掲載した。

無形文化遺産部が所蔵する昭和期の歌舞伎写真を整理し、所蔵一覧等を『無形文化遺産研究報告』に概説した。また、長く雑誌『演劇界』のグラビアを担当していた写真家梅村豊氏(1923-2007)撮影の写真およびネガの整理を行った。

工芸技術に関しては、実地調査を行いつつ文化財保護委員会及び文化庁が行った工芸技術記録、及び現在の染職技術保護の体制について調査・検討を行い、その成果をプロジェクトの報告書に掲載した。また、明治以降の京焼について調査研究を行い、それぞれ『無形文化遺産研究報告』で公表した。

2 無形文化財記録作成事業

① 近年の伝承に変化が著しい宝生流と喜多流の謡曲について、昨年度にひきつづき、流儀の最長老今井泰男師による番謡、喜多六平太師による番謡の音声記録を行った。

「誓願寺」「女郎花」「龍田」「小鍛冶」「雲雀山」「加茂」「檜垣」「富士太鼓」「千手」「竹雪」「籠太鼓」「七騎落」(以上今井泰男 12曲 収録順)

「烏頭」「井筒」「三輪」「山姥」(以上喜多六平太 4曲 収録順)

② 連続口演の機会が激減している講談について、一龍齋貞水師と神田松鯉師による実演記録を作成した。

『仙石騒動』神谷転の普化僧・乗物師五兵衛・神谷転の召捕り・奉行と天蓋(一龍齋貞水)

『文化白浪』和国餅の騙り・大工辰五郎の怪談・上野の偽御使僧・島抜け（一龍齋貞水）

『徳川天一坊』常楽院加担・伊賀之亮加担・大坂乗り出し（神田松鯉）

『幡随院長兵衛』小平の寝返り・法華の最後・芝居の喧嘩（神田松鯉）

3 公開学術講座の開催

12月12日、石川県立能楽堂において「和泉流狂言の伝承—金沢と名古屋—」と題して、第5回無形文化遺産部公開学術講座を行った。これは、金沢大学連携融合事業・日中無形文化遺産プロジェクトとの共催である。入場者数75名。

プログラム

講演Ⅰ 和泉流狂言史の金沢と名古屋 西村 聡（金沢大学人間社会研究域教授）

講演Ⅱ 和泉流：狂言小舞の音楽 高桑いづみ

実演Ⅰ 小舞の比較「海道下り」「石河藤五郎」「鐘の音」

実演Ⅱ 狂言の比較「棒縛」 出演 野村祐丞・佐藤友彦ほか

4 無形文化遺産保護分野での国際的研究交流

韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室と結んだ合意書に基づき、研究員の相互派遣を実施した。

論文等掲載数 6件

- ・飯島満「フィルム音帯に関する調査報告」『無形文化遺産研究報告』5 pp.53-76 11.3
- ・飯島満「資料紹介 二代目鶴沢清八『義太夫節の種類と解説』」『無形文化財の伝承に関する資料集』pp.33-59 11.3
- ・高桑いづみ「翻刻と解題『横笛細工試律便覧』」『無形文化財の伝承に関する資料集』pp.3-31 11.3
- ・高桑いづみ「独吟一管「海道下り」の伝承再考」『楽劇学』18 11.3
- ・菊池理予「工芸技術記録に関する研究—『江戸小紋工芸技術記録』を通じて—」『無形文化財の伝承に関する資料集』pp.61-93 11.3
- ・菊池理予「我が国における工芸技術保護の歴史と現状—染織技術を中心として—」『無形文化遺産研究報告』5 pp.1-15 11.3

発表件数 2件

- ・高桑いづみ「独吟一管「海道下り」の伝承再考」楽劇学会第18回大会 国立能楽堂大講義室 10.7.18
- ・高桑いづみ「和泉流：狂言小舞の音楽」第5回無形文化遺産部公開学術講座 石川県立能楽堂 10.12.12

研究組織

- 宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、菊池理予、綿貫潤、星野厚子、金子健（以上、無形文化遺産部）、森下愛子（客員研究員）